

令和8年度第2回函館中央警察署協議会議事概要

- 1 開催日時
令和8年9月15日（火）午後2時00分から午後4時05分まで

- 2 開催場所
函館方面函館中央警察署 3 階大会議室

- ### 3 出席者

- (1) 協議會委員長
副委員長
委員

美子司至英久美奈栄
真美竜顕康義京部橋田野村上川阿石藤上河村細長員員員員員員
副委委委委委委會
- 名(定員9名)
原橋谷井田出野下
榎高本向柴東上木
永哲文敦瑞夕生
都子郎子一乃子梧

- (2) 警察署 長 佐藤新士 8名 藤田谷谷 伸一 治敏樹渉 副署長 官官 西田一岩 中戸渕 圭卓智 介翔哉幸
木戸警察所長 交通官 北斗交番所長 刑事生活安全官 地域警務

- 4 函館中央警察署協議会会長挨拶

本年7月28日、熊本県で最大震度7を観測する大地震が発生し、8月13日、千葉県では記録的な大雨による道路冠水などが発生するなど、いつ、どこで大規模な災害が発生してもおかしくない状況にあります。

こうした災害が発生した際には、地域住民一人ひとりが防災意識を持ち、地域で助け合うことも大切であると感じております。

災害以外にも、警察官などを名のる者から、犯罪に関与していないことを証明するための手続きなどとして、指定口座に現金を振り込ませる特殊詐欺が発生していると聞いています。

本協議会を通じて、地域住民と警察が共通認識を持ちながら、より住みやすい街にするためにも、皆様からの忌憚のない意見をいただき、活発な協議会になることを期待します。

- 5 函館中央警察署長挨拶

前回協議会以降、我が署の業務処理の状況についてご説明いたしますと、事件検挙では、強盗致傷事件、放火未遂事件、薬物関連事件の検挙が相次ぎ、交通事故に関しては、非常に残念なことから、3件の死亡事故が発生しております。

いずれも、ドライヤーの方が、前方を良く確認し交通ルールを守っていれば発生しなかった、極めて残念なケースでありました。

施策面では、JRA 騎手を一日警察署長に迎えて、特殊詐欺防止や交通安全の呼び掛けを行ったほか、ヒグマ被害防止に関しては、関係自治体と協働した訓練を行っております。

毎度のことながら、今回のテーマのみならず、皆様には、函館における出来事や警察の取組をお知らせした上で、「もっとこうあるべき。」などという直截的な意見をいただけることを期待しております。

- ## 6 議事

- (1) 懲戒処分状況
- (2) 管内の治安概況
- (3) 函館中央警察署のできごと
- (4) 議題

ア 前回質疑の交通事故防止対策に関する説明
イ 学校でのいじめに関して、警察と学校の連携状況
ウ ヒグマの出没事案における警察対応

7 令和8年度第1回協議会での意見・要望に対する取組結果

交通事故の年代別分析、自転車のヘルメット着用率、交通事故抑止対策について

委員 自転車の事故について、年代別の分析をしているか教示されたい。

警察 当署管内（過去5年）年代別の死傷者数について、人対車両14%、自転車対車両16%、車両相互等70%となっており、人対車両の年代別では、高齢者（65歳以上）が全体の約30%、自転車対車の年代別では、19歳以下の若年層が全体の約60%を占める一方、死者数の全てが高齢者という統計結果となりました。

委員 自転車のヘルメット着用率について教示されたい。

警察 死傷者の9割以上が、ヘルメット未着用という統計結果となりました。着用率を上げることが今後の課題と認識しております。

委員 交通事故抑止対策として、予防的観点から、車両を沢山運用する企業への働き掛けを進めていくべきではないか。

警察 ドライバー対策として、安全運転管理者講習会、企業等に対する交通安全講習警察からの情報発信のほか、商業施設での広報啓蒙活動に取り組んでいます。

若年層を対象とした取組として、交通安全教室、街頭活動を行っております。

高齢者対策の取組として、高齢者宅訪問や夜光反射材配布に取り組んでいます。

自治体と連携した取組として、新入学児童啓発や老人大学での講話など取り組んでいます。

委員 ヘルメットを被らずに事故に遭った場合、助かる命も助からないケースがあるため、具体的な指導啓発が必要と思われるがいかがか。

警察 実際にあった事故を題材にした啓発活動により、自転車利用者自らに交通安全意識を高めてもらうほか、プロのスタントマンが目の前で交通事故を再現し、その恐怖を体験させる「スケアードストレート教室」を行っています。

8 委員からの要望・意見と警察の説明

(1) いじめ問題について

委員 警察の現場介入は難しいということがよく理解できました。

子供の今後の学校生活や人間関係をおもんばかって対応を望まない場合、特に対応に難しさを感じる一方、少年の非行防止や虐待を止めるためには、警察の力がどうしても必要です。

ネット上のいじめでは、学校の先生では介入に限界があり、警察による各種捜査に対する期待は大きい。

警察 いじめ問題は非常にデリケートであり、警察としては、学校の自治権にも配慮し、また、子供同士、親御さん同士の関係にも十分に留意しながら対応しているのが現実です。

一方で、学校からの情報提供があって警察が対処している、ということばかりではなく、警察が認知してから学校へお知らせするケースも少なからず存在しており、いずれにせよ、学校と警察との関係が、子供たちの健全育成という目的達成を前提として良好に保たれるよう、円滑な対応に留意しているのが現実です。

委員 警察の教育現場への介入が全体の0.4%と聞いて、保護者や学校の意見を尊重した上での対応であり、タイミングが非常に難しい問題と感じました。

例えば暴行傷害事件などが起きた場合は警察を要請しても良いのであろうが、SNSでの誹謗中傷やLINEグループでのいじめなどは、加害者と被害者の関係を見定め、双方の意見を尊重しつつ警察による介入の必要性を適切に判断するなど、警察との連携が上手く進んで解決される環境作りに期待したい。

いじめがあったら、教育現場だけではなく、警察に直接伝えることができる環境が作られれば良いと思う。

委員 問題提起をされても、教員が対応しきれない場合もあり、第三者である警察が調べるルートがあるというのは大変ありがたいことなので、通報があれば対応していただきたい。

警察 ネット上のいじめに関しては、法律違反に該当するケースもあるため、事件捜査として進めています。

非行やいじめ、健全な学習環境の整備には非常に難しい問題が同居していると思われますが、警察として出来ることをしっかりと行い、皆様の不安を解決できるよう取り組んでいきたい。

(2) ヒグマ出沒について

委員 ゴミ出しルールを厳守する、山での行動に節度を持つなど基本を守っていくことを引き続き広報啓発していく必要がある。

また熊が出沒した際、ドローンを飛ばして、その存在を確認するケースがあるが、地域住民は非常に不安に感じていることから、調査結果について住民に知らせる工夫やヒグマが民家に近寄らないための予防策が必要と思う。

委員 人間と熊がそれぞれの生活圏で共存できるのがベストである。

熊は非常に賢く、一度ゴミのある住宅街に出沒したら、再度出てくる習性があるので、ゴミ出しルール等の自衛対策を継続広報して、地域の方に実践していただくことが大切と考える。

警察 今後の取組の参考とします。

(3) 交通事故防止対策について

委員 道路交通法改正による生活道路の时速30キロ規制について、いまだ周知し切れていないと思う。

マップで示すなど目に見える対策のほか、町内会と連携しながら進めると良いのではないかと。

豊浦町で実施しているように、道路に突起物を埋め込み自発的に速度を落とす道路設備環境を作ることも検討するのが効果的と思う。

警察 参考とします。

委員 交通事故年代別死傷者数の統計を見るに、自転車のヘルメット着用率が極めて低く、実際、ほとんどの高校生は着用していない。

啓蒙活動のほか、一步踏み込んで訴えていく必要があるのではないかと。

ヘルメットは高価なものであるが、例えば、レンタルヘルメットを何らかの手段で確保して、小中学校で活用する、小さい頃から全員が着用する習慣づけにより、一人だけ着けていると目立つ、格好悪いなどの考えもなくなるのではないかと。

警察 非常に興味深い提案であり、関係する行政機関、団体と今後検討していきたい。

学生に関しては、一人だけ着用するのに羞恥心を抱いているため、全員で着用できる環境を構築していきたい。

委員 交通事故防止対策について、放課後の帰宅時間帯、または遊びに出かけた帰りの夕刻時間帯等において、無灯火で走行する自転車が目につき危険である。

また、住宅街における自転車の走行方法で、特に大人であるが、必ずしも左側走行が守られていない。

道路形状などの要因もあるが、日没が早くなる季節を控え、今の段階から注意指導、広報啓発を進めるべきと考える。

警察 提言として業務に反映させていただきます。

委員 次回の検討議題として、免許返納問題について取り上げていただきたい。

高齢者の事故防止の観点からも、現状として、実際に発生した事故事例を含め、免許返納を取り巻く情勢がいかなる状況にあり、実際にどんな対策が講じられているのか、明らかにしていただいた上で検討していく必要があるのではないかと。

警察 次回の議題といたします。

9 次回の開催予定及び議事について

(1) 次回開催予定

令和8年12月上旬を予定

(2) 次回議事

ア 運転免許証の返納について

イ 警察署再編後の情勢について